

2021年度 自己点検・評価シート

入試委員会

基準5	学生の受け入れ
-----	---------

\*各組織における新たな目標または、「2020年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。  
\*2020年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2021年度期首時点)	①2021年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2021年度の取り組みとその成果 ②2021年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会所見 (改善・向上への取り組み)
<p>●学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか</p> <p>○「入学選抜方針」に基づく学生募集方法及び入学選抜制度の適切な設定</p> <p>○責任所在を明確にした入学選抜実施のための体制の適切な整備</p> <p>○公正な入学選抜の実施</p> <p>○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学選抜の実施</p>	<p>[現状説明]</p> <p>本学の4学部1プログラム(以下「各学部等」)の学生募集及び入学選抜制度は、全学の学生の受け入れ方針(以下「アドミッション・ポリシー」)および各学部等のアドミッション・ポリシーに基づき、4学部の委員で構成される入試委員会が原案を作成し、代議員会で審議、決定している。各学部等の学生募集及び入学選抜制度は入試委員会において毎年度見直しを行い、不備や問題点への修正を加えた上で代議員会に提案している。代議員会においては全学的な観点から各学部等の学生募集及び入学選抜制度を審議、決定している。新規の入学選抜制度を提案する際には、入試委員会で作成した原案を各学部教授会、キャリアデザインプログラム運営委員会で予め報告を行い、幅広く意見聴取し、必要な修正を加えた上で代議員会に提案、審議、決定しており、アドミッション・ポリシーに基づき適切に学生募集方法及び入学選抜制度を設定していると言える。</p> <p>第3年次編入については、経営学部流通マーケティング学科に30名、コミュニケーション学部コミュニケーション学科に30名、現代法学部現代法学科に20名の3年次入学定員が設定されており、学生募集及び入学選抜制度もこれらの定員を前提に募集人員の設定をせざるを得ないが、近年短期大学卒業生数が減少する中、募集定員充足がほぼ不可能な人数であるため、毎年定員充足に至っていないことは問題点である。</p> <p>代議員会で決定された学生募集方法及び入学選抜制度は、入試広報活動の中で本学大学案内誌や本学ウェブサイト、さらに受験雑誌、受験生用ポータルサイトなど多様な媒体により幅広く周知されている。媒体広報のほかに、大学説明会、オープンキャンパスなどの行事、さらには専任教員による出張講義、入試課員や入試本部協力委員による進学相談会、高校訪問により対面での入試広報活動を通常では行いが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で特別な対応が必要となっている。具体的には、昨年度開設したWebオープンキャンパス特設サイト、Web会議ツールによる進学相談等を今年度も計画している。</p> <p>入学選抜においては、入試本部長を責任者とした入試本部が志願者の募集、入学選抜計画の策定及び実施について全般的に責任を負い、それらに関する事務は入試課が行っている。入試実施に際しては、コロナ禍における文部科学省等からのガイドラインに基づいた対応やその他の不測の事態が生じた際の対応は事前に入試本部でシミュレーションを行い、適切な対応に努めている。</p> <p>全ての入学選抜における合否判定は代議員会で決定した入学許可者選考基準(非開示)に基づき入試委員会で原案を作成し、学長を議長とする合否判定会議で審議の上、各学部教授会、キャリアデザインプログラム運営委員会で決定している。合否判定会議に諮る合格者に関する原案においては、受験者の個人情報(出身高校や受験番号等)を含め非公開とし、各種入試において受験者が獲得した得点のみが提示された資料を判断材料として合否判定を検討しており、これにより公正な入学選抜が行われていると言える。</p> <p>入学を希望するもののうち、障がい等のため入学選抜に際し配慮を希望する受験者については、募集要項に出願前に問合せるように明記している。申出のあった受験希望者に対しては入試本部が個別に入学選抜試験における公平な合理的配慮について決定し対応をしている。同時に、入学後の学習、学生生活に支障がないかどうかについて、希望学部の教員ならびに学務課、学生課の担当者を加えて受験希望者とその保護者に面談等により十分な説明をしている。</p>	<p>②</p> <p>1. 入試委員会議事録 2. 入試本部会議議事録 3. 合否判定会議議事録</p>	<p>①</p> <p>2021年度実施の学生募集は2020年度中に入試委員会、代議員会で検討し決定した各種入試募集要項に基づき2022年度入学生の募集を行った。各種募集広報の結果、1年次対象の総合型選抜・学校推薦型選抜では全学部併せた募集定員663人に対し、志願者数960人(前年比2.8%増)、一般選抜・共通テスト利用選抜においては募集定員922人に対し志願者数9,521人(前年比0.5%減)と前年度並みとなり、志願者数の減少に歯止めをかけることができた。昨年度は感染症の影響によってオープンキャンパスが例年通りに開催できなかったが、今年度は感染症対策を万全にして開催できたことも志願者数確保の要因になったと思われる。</p> <p>3年次編入入学入試においては全学部併せた募集人員80人に対し志願者数91人(前年比11.7%減)と昨年度より減少したものの、2年連続で募集人員を上回る志願者数を確保することができた。近年短期大学卒業生数が減少する中、学則上の3年次編入入学定員(流通マーケティング学科30名、コミュニケーション学科30名、現代法学科20名)は引き続き検討すべき課題であるが、2022年度からコミュニケーション学部2学科体制が始まり、これに伴い2024年度3年次編入入学入試ではコミュニケーション学部の編入入学定員を若干名に変更する予定である。</p> <p>入試実施においては、大学入学共通テストも含め、入試本部のもと、文部科学省による「新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン」に則った運営の他、感染症等による急な欠員にも対応できるよう備え、適切に実施した。また、あらかじめ定められた合否判定基準に基づいて適切に合否判定が行われた。</p> <p>合理的配慮に基づく公平な入学選抜については、2022年度入試は一般選抜前期において1名の視覚障がい者の出願を受理し、志願者からの要請に基づき、入試本部会議で対応措置を決定し、点字受験、試験時間延長等の対応を行った。また、感染症対策の内、持病等によりマスクが着用できない等の志願者2名の出願を受理し、同様に対応措置を決定し、別室受験等の措置を行った。この他にも軽度の障がい、病気、怪我等で複数の配慮希望があった。いずれも志願者本人の要望を予め聞いたうえで、入試の公平性を確保した可能な限りの対応を行ったといえる。</p>	B	<p>1. 各学部等アドミッション・ポリシー</p> <p>2. 各入試募集要項</p> <p>3. 入試委員会規程</p> <p>4. 入試本部規定</p> <p>5. 事務組織分掌規程</p> <p>6. 合否判定会議規程</p> <p>7. 入試委員会議事録</p> <p>8. 入試本部会議議事録</p> <p>9. 代議員会議事録</p> <p>10. 各種入試志願者数一覧</p>	<p>○引き続き改善・向上に努めてください。</p>

2021年度 自己点検・評価シート

入試委員会

基準5	学生の受け入れ
-----	---------

\*各組織における新たな目標または、「2020年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。  
\*2020年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2021年度期首時点)	①2021年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2021年度の取り組みとその成果 ②2021年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会所見 (改善・向上への取り組み)
<p>●適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか ○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理</p> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学定員に対する入学者数比率</li> <li>編入学定員に対する編入学生数比率</li> <li>収容定員に対する在籍学生数比率</li> <li>収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応</li> </ul>	<p>[現状説明] (学部全体) 各学部の入学定員に対する1年次入学者数比率は、経済学部0.99、経営学部1.00、コミュニケーション学部1.03、現代法学部1.04であり、全体で1.01となった。これは、キャリアデザインプログラムの1年次入学者56名(2021年5月1日時点)を学部への配属等取り扱い基準に基づき各学部に配属させた数を含んだものである。入学者数は概ね適切に管理されていると言える。キャリアデザインプログラムは50名を定員として募集し入学選抜を行っている。 近年増加傾向にあった推薦選抜の志願者数を抑制するため、2018年度入試以降あらかじめ「指定校推薦選抜」の出願資格である評定平均値の見直しや、大幅な指定枠の削減を行ってきた。これにより、2020年度、2021年度入試では志願者数が減少し、「指定校推薦選抜」募集定員と入学者数の乖離が比較的抑えられるようになった。2022年度入試ではこれまでの抑制方針を停止する。 2021年度の一般選抜・共通テスト利用選抜では全国的に大学入試志願者数が大幅に減少し、逆に合格者数が増加するなど、入学手続率や入学辞退率の予測が困難であった。そのため、定員の不足分を一般選抜後期や一般選抜前期の追加合格発表を細かく行うことで入学定員管理に努めた。</p> <p>学部在籍外国人留学生数は2021年5月1日で49名であり、2021年度留学生選抜による1年次入学生は指定日本語学校推薦選抜、留学生選抜合計で17名であった。国際化ビジョン2021で目標とする2021年までに学部在籍学生100名に少しでも近づけるため、2020年度入試からの「日本留学試験利用型」導入、2021年度入試での入学検定料見直しに続き、2022年度入試では出願の利便性向上のため、窓口出願から郵送出願に切り替える。</p> <p>3年次編入学生については、経営学部流通マーケティング学科0.93、コミュニケーション学部コミュニケーション学科0.67、現代法学部現代法学科0.65と定員確保には至らなかったが、2021年度入試では志願者数が増加した。しかし、これは一過性のものであり、2022年度入試でも定員確保には困難な状態が続いていると思われる。</p> <p>(経済学部) 本学部において入試種別ごとの募集定員に対する入学者の比率を見ると(キャリアデザインプログラムからの分属分を除く)「一般選抜」0.91、「共通テスト利用選抜」0.40、「推薦入試」1.38、「その他入試」0.90であった。昨年に比べ「推薦入試」の入学者比率がやや改善した。「共通テスト利用選抜」の比率が低下したが、これは入学手続率の低下によるものである。学部の募集定員に対する入学者数比率は0.99、キャリアデザインプログラム生の分属分17名を含めた入学定員に対する入学者数比率も0.99となった。</p> <p>(経営学部) 本学部において入試種別ごとの募集定員に対する入学者の比率を見ると(キャリアデザインプログラムからの分属分を除く)「一般選抜」0.87、「共通テスト利用選抜」0.34、「推薦入試」1.47、「その他入試」0.92であった。昨年に比べ「推薦入試」の入学者の比率がやや改善した。「共通テスト利用選抜」の比率が低下したが、これは入学手続率の低下によるものである。学部の募集定員に対する入学者数比率は1.00、キャリアデザインプログラム生の分属分17名を含めた入学定員に対する入学者数比率も1.00となった。</p> <p>(コミュニケーション学部) 本学部において入試種別ごとの募集定員に対する入学者の比率を見ると(キャリアデザインプログラムからの分属分を除く)「一般選抜」0.97、「共通テスト利用選抜」0.30、「AO選抜」1.00、「推薦入試」1.31、「その他入試」1.05であった。昨年に比べ「推薦入試」の入学者比率がやや改善した。「共通テスト利用選抜」は引き続きが低くなっている。学部の募集定員に対する入学者数比率は1.02、キャリアデザインプログラム生の分属分11名を含めた入学定員に対する入学者数比率は1.03となった。</p> <p>(現代法学部) 本学部において入試種別ごとの募集定員に対する入学者の比率を見ると(キャリアデザインプログラムからの分属分を除く)「一般選抜」1.09、「共通テスト利用選抜」0.52、「自己推薦選抜」1.13、「推薦入試」1.09、「その他入試」1.13であった。「推薦入試」が改善し、他の入試も「共通テスト利用選抜」を除いて適正な比率に近づいている。学部の募集定員に対する入学者数比率は1.04、キャリアデザインプログラム生の分属分11名を含めた入学定員に対する入学者数比率も1.04となった。</p> <p>(キャリアデザインプログラム) 本プログラムは全体で50名の定員を設け「一般選抜」「共通テスト利用選抜」「AO選抜」で募集を行った。入試種別ごとの入学定員に対する入学者の比率は、1.24、1.60、0.85であった。プログラムの募集定員に対する入学者数比率は1.12となった。</p> <p>[長所・特色]</p> <p>[問題点] 「推薦選抜」において募集定員に対する入学者の比率が依然として高い傾向にあること。 留学生の入学者が少ないこと。 編入学定員に対し、入学者が少なくなっており、全学的な定員見直しの検討が必要となっていること。</p>	<p>① 1、募集定員に対する入学者の比率の適正化 2、留学生対象入試の志願者確保 3、3年次編入学入試の志願者確保</p> <p>② 入試種別ごとの定員充足率</p>	<p>① (学部全体) 各学部の入学定員に対する1年次入学者数比率は、経済学部1.01、経営学部1.04、コミュニケーション学部1.07、現代法学部1.00であり、全体1.03となった。これはキャリアデザインプログラムの1年次入学者52名を学部への配属等取扱基準に基づき各学部に配属させた数を含んだものである。入学者数は概ね適切に管理されているといえる。 「指定校推薦選抜」は2018年度入試以降評定平均値の見直しや指定枠の削減による志願者数抑制を行った結果、昨年度に続き推薦入試比率を抑制することができた。 3年次編入学生については、経営学部流通マーケティング学科0.67、コミュニケーション学部コミュニケーション学科0.80、現代法学部現代法学科0.45といずれも定員を下回った。昨年度から志願者数は増加傾向であるものの、未だ定員確保には至っていない。</p> <p>(経済学部) 本学部において入試種別ごとの募集定員に対する入学者の比率は(キャリアデザインプログラムからの分属分を除く)「一般選抜」0.90「共通テスト利用選抜」0.98「推薦選抜」1.18「その他入試」1.06であり、学部の入学定員に対する入学者比率は1.01であった。</p> <p>(経営学部) 本学部において入試種別ごとの募集定員に対する入学者の比率は(キャリアデザインプログラムからの分属分を除く)「一般選抜」0.75「共通テスト利用選抜」0.66「推薦選抜」1.41「その他入試」1.55であり、学部の入学定員に対する入学者比率は1.03であった。</p> <p>(コミュニケーション学部) 本学部において入試種別ごとの募集定員に対する入学者の比率は(キャリアデザインプログラムからの分属分を除く)「一般選抜」0.94「共通テスト利用選抜」0.94「AO選抜」1.10「推薦選抜」1.58「その他入試」0.67であった。学部の入学定員に対する入学者比率は1.07であった。</p> <p>(現代法学部) 本学部において入試種別ごとの募集定員に対する入学者の比率は(キャリアデザインプログラムからの分属分を除く)「一般選抜」0.84「共通テスト利用選抜」0.64「推薦選抜」1.26「その他入試」1.20であり、学部の入学定員に対する入学者比率は1.00であった。</p> <p>(キャリアデザインプログラム) 本プログラムでは全体で50名の定員を設け、「一般選抜」「共通テスト利用選抜」「AO選抜」で募集を行った。入試種別ごとの入学定員に対する入学者の比率は、「一般選抜」0.92、「共通テスト利用選抜」1.20、「AO選抜」0.95、であり、プログラム全体の募集定員に対する入学者比率は1.04であった。</p> <p>② 継続課題となっている「推薦選抜」の入学者比率は、全体では前年よりも下がっており、改善をはかることができた。 3年次編入学生については、定員の充足には至っていないため、現在の定員を入試広報的な努力で埋めるべく引き続き努力する。しかし短期大学卒業生数が減少する中、現実的には非常に厳しい状況である。学則上の3年次編入学定員(流通マーケティング学科30名、コミュニケーション学科30名、現代法学科20名)の見直しについて、コミュニケーション学部では2024年度入試から見直しを予定しているが、他の学科についても全学的に検討をお願いしたい。</p>	B		<p>★編入学定員に対する編入学生数比率については、大学基準協会からの「改善課題」等の指摘を受けた項目です。具体的な改善策の内容や改善の実施プロセス、改善の状況等を「改善報告書」に記入できるよう改善を行ってください。</p>

2021年度 自己点検・評価シート

入試委員会

基準5	学生の受け入れ
-----	---------

\*各組織における新たな目標または、「2020年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。  
\*2020年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2021年度期首時点)	①2021年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2021年度の取り組みとその成果 ②2021年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会所見 (改善・向上への取り組み)
④ ●学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか ○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	[現状説明] 学生募集及び入学選抜については、毎年度入試委員会においてそのあり方について十分な検討をし、代議員会において審議・決定している。また、入学選抜における入試問題あるいは面接についても、出題委員会および入試本部会議において、その内容が適切であるか、学力を公正に判定できるのかについて、毎年度適切に検討を行っている。 次年度の入試については、過年度の入試結果(各学部等について各入試種別における志願者、受験者、入学者、競合他大学の入試結果等)、各入試種別における入学者の成績などを入試委員会で報告し、問題があれば検討の上必要な修正を行って代議員会で審議・決定する。新規の入学選抜方法を提案する場合には、入試委員会、各学部教授会等、代議員会という3者間で調整を行い、慎重に決定している。  [長所・特色]   [問題点]	② 1. 入試委員会議事録 2. 出題委員会議事録(非開示)	今年度開催の入試委員会では、4月に主に前年度入学者の成績、6月に前年度卒業者の進路状況を入試種別ごとに点検し、実施した入試の妥当性について検討し、2021年度実施入学選抜の妥当性について検討を行った。 2023年度の入試については、2022年度入試の入試結果(各学部等について各入試種別における志願者、受験者、入学者、競合他大学の入試結果等)、各入試種別における入学者の成績などを入試委員会で報告し、問題があれば検討の上必要な修正を行い、必要に応じて各学部教授会に報告の上、代議員会で審議・決定した。	A		○引き続き改善・向上に努めてください。